

西山殿御返事

建治三年一月二三日 五六歳

としごろ^{ごしょう}後生^思を^食ぼしめして、御心ざしをはすれば、名計り^{ばか}申し候。同行どもにあら
あ^間らきこ^食しめすべし。やすき事なれば智慧の入る事にあらず、智慧の入る事にあらず。
恐々。

一月廿三日

日 蓮 花 押

西山殿御返事